

美杉町多気にある美杉ふるさと資料館の展示室には、幅が2mを超える大きな絵図が展示されています。この絵図は、『多気城下絵図』と呼ばれ、室町時代から戦国時代にかけて主に南伊勢地域を支配した北畠氏の本拠地である多気の城下を描いたものです。

この絵図をはじめ、多気城下を描く絵図は現在26枚が確認されており、これらは北畠氏が統治していた時代ではなく、すべて江戸時代以降に描かれたものであることが判明しています。いずれの絵図も、多気盆地を南から北に流れる八手俣川を中心に、その兩岸の城下の様子と周囲の山々を描く構図となっています。中でもこの絵図は、城下を最も細長く描いています。

この絵図の最大の特徴は、中央上部に大きく描かれた霧山城をはじめとして、周囲の山の上にある城が、堅牢な造りの石垣を伴った城郭として描かれていることです。高い石垣や白壁の天守を思わせる建物など、あたかも近世城郭を思わせるその描写は、実際の城の状況とは大きく異なっています。これは、往時の北畠氏の強大な勢力を誇示し権威付けの意味合いがあったと考えられます。ま

た、町屋部分は建物が模式的に描かれ、なかば記号化されるなどの省略も見られます。

後の時代に誇張や省略を用いて描いた絵図は、歴史資料として必ずしも正確とは言えませんが、伊勢国で栄華を誇った北畠氏の城下の繁栄の様子を垣間見ることができます。

美杉ふるさと資料館から今秋刊行されたこの絵図の縮小版を手に、秋の深まる多気盆地を散策してみたいかがでしょうか。

（「広報津」平成22年10月1日号）

